発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町二
電話3033番
編集兼発行人　平島敏治

〝きれいな爆弾〟よりも〝きたない戦争〟を廃止せねばならない。
ホーマー・A・ジャク

核実験を中止せよ！

第三回原水爆禁止世界大会開かる

第三回原水爆禁止世界大会本会議は、八月十二日から五日間東京において開催された。

思想、信条、社会体制のちがいをこえて、二十五カ国、十国際組織九十七名の外国代表と、三千九百八十一名の日本代表、千名をこえるオブザーバーを集めて、六日から行われていた国際予備会議で決められた問題を中心に、熱心な討議が行われた。

大会は、階層別、テーマ別分科会において、原水爆禁止のための具体的行動について討議をふかめ、十六日の全体会議で、「東京宣言」をはじめ「国連と各国政府へのアピール」「共同行動に関する勧告」等を採択し、平和への熱情をこめた、世界のすみずみまでひびくような「原爆を許すまじ」の大合唱と、長く続くあらしのような拍手のうちに、歴史的な大会の幕をおろした。

原子戦争体制との対決

広島と長崎でひらかれた大会につづいて開催された、第三回世界大会をとりまく国際情勢と、大会のもつ、中心的な任務について、日本原水協事務局長、安井郁氏は「大会は日本国民だけで行われているのではなく、過去三回の大会よりもはるかに巾ひろく、世界のあらゆる地域からの平和を愛する人々が集つて開かれている。

だが、このような運動の発展と世論のたかまりにもかかわらず世界の一方では、原水爆実験競争、軍事基地の原水爆基地化など、原子戦争の準備がすすめられている。

現在の国際情勢の焦点はここにある。

だから、この大会のもつ基本的な任務は、「原子戦争体制との対決」である。

そのための当面する重要な課題は、

(1)、原水爆実験の即時無条件禁止

(2)、軍事基地の原水爆基地化反対

(3)、他国への核兵器持込み反対

である。それとともに、部分的な軍縮協定から、全般的軍事力縮少への道をひらくこと、原子力の平和利用、被害者対策、についても真剣にとりくまねばならない」とのべた。

被爆者へ救援金

中国代表がおくる

大会第一日目全体会議において被爆者代表の挨拶のあと、中国代表のチョウ撲初氏が、〝全中国人民を代表して、広島・長崎の方たちとの握手を許して下さい〟と発言、割れるような拍手の中で、広島・長崎の被爆者のいたいたしいケロイドの顔にほおずりをし、広島夫人と堅く抱きあつた。

労働者は平和運動のかなめ

各階層別で行われた協議会の労働者協議会では、原水爆禁止をはじめとする平和運動は、労働者の生活や権利を守る闘いと同様極めて重要な闘いであり、平和運動は、経済闘争と表裏一体の関係にあることを認め、労働者は巾ひろい平和運動の中心になつて強く闘わねばならないことを決意した。

そのため職場の中で、アメリカの原子戦争の準備に協力している岸政府の正体を具体的に明らかにする活動を積極的に行い、全労働者階級を統一し、更に農民中小企業者、婦人、学生等と結合して運動をすすめるためにセクトをすてて努力せねばならないことを明らかにした。

訴えから行動へ

国連へ向け世界的な行動

原水爆禁止運動は、署名運動から始まり、広島・長崎の大会を通じて国際的な運動に発展した。

広島・長崎の大会では、被爆者救済を中心とした感情的な禁圧運動としての傾向があつたが、今回の大会は、原子戦争体制との対決という重要な課題を中心に討議を深め、平和運動は大きく質の転換をしめした。

それは、米英ソ三国が即時無条件に実験を中止するよう、国連が全力をつくすことを強く要求し、今年の秋、十月を中心に一定の日または、期間をきめて各国一斉に原水爆実験即時無条件禁止協定の締結をかかげて、あらゆる形のデモストレーションをもつて、運動を展開するかたちとなつて決議された。

同時に大会は原水爆禁止と基地問題がふかい関係にあることを討議し、アメリカを中心とする戦争勢力が原子戦争の準備を着々とすすめており、岸政府はこれに公然と協力をしていることに大きく眼をむけた。

とくに、三度の被害をうけ、沖縄砂川などアメリカの支配下にある軍事基地をもつ日本国民は、原水爆禁止と原子戦争に反対する叫びを、全世界に訴えつづけ、その行動の先頭に立つて闘うことを決意した。

国境をこえ言葉のちがいをこえた友愛は、参加者五千名の胸をつよくうつた。

そして、中国の諸団体の手であつめられた救援金五万元（約七百五十万円）を原爆被災者におくつた。

『東京宣言』

原水爆禁止と軍縮のための第三回世界大会は、一九五七年八月六日から十六日まで、東京でひらかれました。アジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、大洋州の各州から、二十五カ国、十国際組織九七名の外国代表と三、九八一名の日本代表は、原子戦争の準備を阻止する共通の目的をもつてこの大会に参加しました。

大会における真剣な討議の結果、私たちは、社会態勢や思想信条のちがいをのりこえて、次の点で意見の一致を見るにいたりました。

私たちは、核兵器実験を原子戦争準備の危険な表現とみとめ、関係政府が実験の即時且つ無条件禁止のために、国際協定を締結することを要求します。

私たちは、国際的監理をともなう核兵器の製造、貯蔵、使用の禁止を要求します。

私たちは、核兵器所有国が他のいかなる国に対しても核兵器をもちこむことに反対します。

私たちは、関係各国政府によつて受諾される監理制度をともなう全般的軍縮を要求します。もし全般的軍縮の達成がまだ困難であれば、私たちは部分的軍縮協定を要求します。

私たちは、軍事基地、特に原子戦基地の設置と拡張に反対します。

私たちは、すべての軍事ブロックの同時的解消と、すべての外国領土からの、すべての外国軍隊の撤退が原子戦争の危険をやわらげるものであることを認めます。

これらの問題の解決は緊張をやわらげて国際情勢を改善し諸国民の独立の達成と回復に貢献するでありましょう。

私たちの目的を実現するためには直ちに効果的な行動をとることが不可決であります。私たちは、各自の国における全国民的な同共行動と、国際的な共同行動を盛上げるために全力をつくすことを決意しました。

私たちの行動は、特に国連総会に向けられなければなりません。私たちは、核実験禁止と核兵器禁止と軍縮について、国際連合が諸国民に対するその重大な責務を速やかに遂行することを要求します。

私たちは、戦争のないそしてあらゆる実験によつて生ずる放射性塵の危険のない未来の保証は、世界の人々の最大の願いであることを確信します。かかる未来の実現こそ、原爆の最初の犠牲者である広島、長崎の人々、そして、ビキニの水爆実験の被災者にとつて、最善の救いをもたらすものであります。

核兵器及びその実験に反対し、軍縮を求める私たちの運動の窮極の目的は、戦争そのものの根絶にあります。

私たちは、原水爆禁止と軍縮のための第三回世界大会の名において、これを宣言します。

一九五七年八月十六日　東京

原水爆禁止と軍縮のための
第三回世界大会

平和運動　世界的なものに

原水爆禁止世界大会に参加して

高木千志子

第三回原水爆禁止世界大会は、世界のあらゆる地域から平和を愛する人々が集つて、原水爆を禁止するための討議が五日間にわつて熱心に行われました。

このように原水爆禁止の運動が広まつて平和に対する世論が高まりつつありますが、一方では原水爆の実験をしたり、原子戦争のための基地が作られたりして、原子戦争への準備が着々と進められていることは申すまでもございません。

今度の大会は、広島、長崎でひらかれた大会に比べてより重要な任務をもつていました。それは一部の人達の手で進められている原子戦争の準備をくいとめなければならないということです。

そのために、原水爆の実験を直ちに中止させること。軍事基地を広がらせないこと。よその国に原子兵器を持ち込ませないこと。を実現させるためにどうすれば良いかを中心に話し合いが進められたのです。

世界的なひろがり

このような平和に対する関心が高まることを恐れて、「きれいな水爆」などとゴマカシの宣伝をさかんにやつていますが、大会は「きれいな水爆」よりも「きたない戦争」をなくするために話合をしました。

この運動は、考え方や立場のちがいをこえて「人間の生命と幸福を守る」ことで世界的に広がつてきましたがまだ十分だとはいえません。

そのことについてメルヴイル夫人（オーストラリア代表）は「オーストラリアの平和運動は非常に困難でしたが、実験が私達の国で行われるようになつてから、オーストラリア国民はその危険を一層認識するようになつています。だが困つたことにまだ多くの人が平和に無関心でいます。

これらの人々を自覚させるなら私達のたたかいは終るでしようあらゆる恐怖が経験され、極めて多くの原爆犠牲者が死人同様の生活を送つているこの日本でさえ、数百万の無関心な人々がいるのです。世界のどこでもそうなのです。

私達に原子兵器がもたらす苦しみと悲惨をすべての人々にわからせる力がありさえすれば……私達にもつとも必要なことは、すべての国民に私達の使命を伝えることです。」

といつています。

平和と家庭の切廻し

今私達の中には、生活が苦しくて、家庭のきりまわしに精一ぱいで平和運動などには手がまわらないというような気持がかなり残つています。しかし苦しい生活をよくすることと、平和運動は切つても切れない関係にあることを知らねばならないと思います。

大会五日間の平和への願いをこめた討議の中から、私達が今後進まなければならない方向を「東京宣言」としてあきらかにしました

私達はこの方向に向つてより一層の努力を続けなければなりません。

女は夫や子供を太平洋戦争に送り出しました。

靖国神社で逢おうといつたのも要としての、母親としてのゆがめられた愛情でした。

今こそ私達は、夫や子供を原子戦争に出さないように、平和への関心を高めなければなりません。

俺にもいわせろ

▲みんなが云いたい事をみんなが聞くべきだ▲一口が一生を明るくする▲天性は苦労の中から

ソフトボールに思う

私は宮浦支部の一組合員でありまたソフトボールの大愛好者である。

去る七月十四日第一回大牟田地区労組体育大会が開催されたが、出場種目によれば一般的に行われている競技なので非常に楽しみにしていた一人である。

大会のことは事前に毎日新聞で見ていたので、各種目の中でもとくにソフトボールの出場する方法に興味を持つていたところ、支部委員会の中で報告され了解ということになつたようである。

スポーツは若い人の独壇場であるが、この中でソフトボールだけは、野球の出来なくなつたわれわれにとつて唯一の楽しみとして、また壮年諸氏にとつて現在大流行していることは衆人の認めるところであろう。

それに各出場種目の中で、ソフトボールにだけは出場出来るかもと若干の望みを持つていた者もまた幾人かいたことは事実である。

それが年令制限をやらないという決定であつた。これは大地評で結論が出された模様だが、大体ソフトボールは女子か男子の壮年とされたものである。それが年令制限をやらずに若い者だけで出場するということは、宮浦だけでなく電化、東庄、染料、合成でも恐らく壮年の者にとつては不平の一つもいいたくなる者がいないとはいえないと信ずるものである。

また、こともあろうに口部内職場対抗で勝つた電気部内が出場している。私は思いました。出場するチームもチームだが、これを提案した宮浦支部の担当部と了解したわれわれの代表者もいますが、決議機関にもあきれてものがいえない気持がした。

年令制限をしないならば決定通りでよいとしても、宮浦支部代表チームならば、代表チームらしいメンバーで出場するのが本当だと思う。現在野球をやめている者、その他多数の人がいるということは筆にしなくてもお解りの筈である。また第一回にこのような例をつくれば、部内対抗に勝つてはそのチームが出場されることになることが今後行われて行くことになるでしょう。これは決してよいことではないと思う。

そこで、出来るならばソフトボールだけは年令制限をやつて、三池各労組の壮年のスポーツとして来る年開催してもらいたいということを強く要望いたします。年令制限が出来ないならば、最強チームで出場するように。

このように思い考えている者が正々堂々といえない状態で多数いることを忘れないでもらいたい。

最後に出来ますならば、このソフトボールだけは各労組の壮年の楽しいスポーツとして、今後成果を挙げていくように強く要望して筆をおきます。

（宮浦　粗布工　樺留生）